

創造・誇り・愛！ 輝く七中 ^{きら}煌めけ生徒！！



とちのき

〒190-0034 東京都立川市西砂町 6-28-3

TEL (042) 531-0511 FAX (042) 531-6103

立川市立立川第七中学校

校長 水越 伸朗

学校だより

第3号

令和5年6月20日



七中 HP URL

相手を敬う心

校長 水越 伸朗

6月7日（水）に行われた第46回運動会には、多くの保護者の皆様にお越しいただきました。仮設体育館建設工事の関係で、競技エリアが狭くなり、参観いただくスペースが少なくなりましたが、ご協力いただきありがとうございます。また、アンケートでは、お子様の成長した姿や運動会全般に係る感想が寄せられており、ご家庭においてもお子様を励まし、応援されている様子が感じられました。あらためて保護者の皆様のご理解、ご協力に感謝いたします。

1学期の大きな行事は終わりました。これからの学校生活においても、今回の経験を生かして、大きく成長していくことを願っています。

19日の全校朝礼では、運動会に関連して「相手を敬う心」について話しましたので、その一部を紹介します。

～朝礼（6月19日）講話より抜粋～

今回の運動会であらためて感じたことがありました。それは、皆さんが競技や係の仕事に一生懸命に取り組むだけでなく、同じクラスや同じカラーの先輩や後輩はもとより、他のクラスや違うカラーの仲間や先輩、後輩に対しても、しっかりと応援していたということです。競技をしているわけですが、もちろん自分が勝ちたい、自分たちが優勝したい、という気持ちがあると思います。しかし、その気持ちだけを前面に出すのではなく、一緒に競技している他のクラスや学年の仲間たちを大切にする気持ちの表れだと思います。実は、こういった気持ちは、一流のスポーツ選手にもあります。

リオデジャネイロ、東京と連続してオリンピック金メダルを獲得した、男子柔道の^大野将平選手の話です。大野選手は、その強さはもちろん、試合開始前と終了後の「礼」がとても美しく、世界中の柔道家からも尊敬されている選手です。また、大野選手は相手に勝っても喜びを抑え、静かに心を落ち着かせて、しっかりと「礼」をします。その「礼」について問われた大野選手は、「相手がいる競技ですから、相手を敬っているのです、冷静に綺麗な礼ができたのではないかと思います。日本の心を見せられる場面でもあるので、気持ちを抑えられたと思います。」と答えています。

また、前回日本で行われたワールドカップで、一気に人気を高めたラグビーでは、試合が終わることを「ノーサイド」と言います。敵も味方もなく、お互いの健闘を称えあおうという意味です。最近はスリーチアーズと言って、試合を終えた選手たちがグラウンド上で向き合って並び、エールの交換を行っています。しかも、このエールの交換は、初めに、勝ったチームが負けたチームに対して行います。これも、相手を敬っている行為だと思います。激しい戦いの後、ライバル同士がエールの交換を行い、お互いを称えあう光景はとても爽やかで、すがすがしさを感じます。

このように、相手と直接対戦するスポーツは、相手がいないと成り立ちません。ですから、相手を敬う気持ちが表れるのだと思います。皆さんも今回の運動会で見せた、相手を敬う心を大切にしていくください。